

水資源・環境学会第4代会長退任にあたって

仲上健一（立命館大学名誉教授・水資源・環境政策）

2021年3月30日に開催された理事会で第4代水資源・環境学会会長に就任して、2026年7月9日の理事会で、奥田進一新会長にご就任頂くことができ、無事に退任することができました。この間、1,927日に亘る、水資源・環境学会の諸活動を支えていただきました、理事及び会員の皆様に厚くお礼申し上げます。とくに、仁連孝昭事務局長、奥田進一企画委員長、高橋卓也編集委員長、吉岡泰亮広報委員長、さらには研究大会及び冬季大会更にはエクスカーションにおいて大役をお引き受け頂いた、また随時的確な助言を頂きました秋山道雄理事、三輪信哉理事、原田禎夫理事、野田岳仁理事、飯岡宏之理事にお礼申し上げます。お陰様で、学会行事を円滑に実施することができました。また、学会事務局の移転に伴う学会誌の編集に際しては、伊藤達也理事のリーダーシップのもとに継続することができました。また、水資源・環境学会40周年記念事業として、『環境問題の現場を歩く』シリーズも発刊することができました。

水資源・環境学会の源流は、水資源・環境研究26巻2号（2013）の[「座談会 学会の成立経緯から展望する水資源・環境研究の課題と将来」](#)に記してありますように、秋山、仁連、仲上が集まって水資源・環境研究に関する研究会を1976（昭和51）に始めたことに辿ることができます。あれから、50年が経過し、水資源・環境学会の研究活動も歴史的意義を有することができたと思います。水資源・環境学会は、2020年からのコロナ禍を無事に乗り切り、だんだんと元来の活動ができつつあります。新会長のもとで、水資源・環境学会の更なる発展を祈念いたします。